

ロジスティクス環境会議  
第4回省資源ロジスティクス推進委員会

2004年4月26日(月)14:00～17:00  
芝パークホテル 本館3F 牡丹

次 第

1. 開 会
2. 省資源ロジスティクス推進委員会の活動計画について
3. 議 事
  - 1) 委員会・分科会の活動と分科会構成について
  - 2) アンケート調査票について
  - 3) その他
4. 分科会メンバーの自己紹介
5. 閉 会

【配布資料】

- 資料1 : 省資源ロジスティクス推進委員会の活動計画  
資料2 - 1 : 委員会・分科会の活動計画(案)  
資料2 - 2 : 分科会構成(案)  
資料3 : 省資源ロジスティクスに関するアンケート調査票(案)  
参考資料1 : 事例集の編集方針と構成  
参考資料2 : 第2回委員会議事録  
参考資料3 : ロジスティクス環境会議 組織構成図

以 上

## 省資源ロジスティクス推進委員会の活動概要（案）

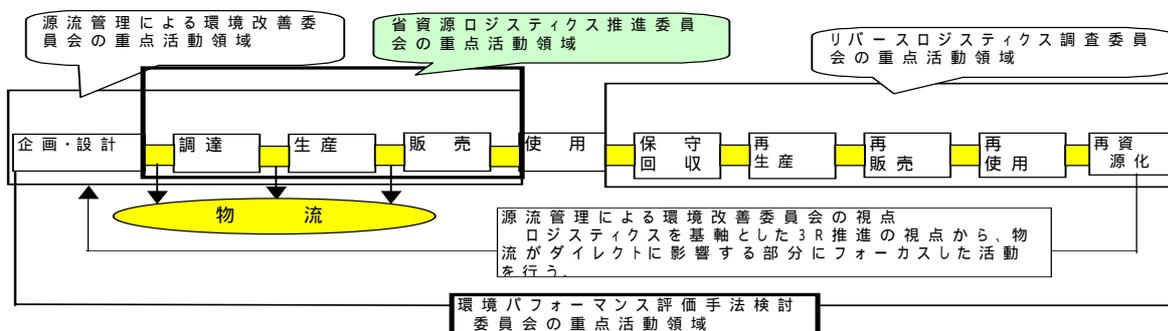
### 1. 活動方針

- 1) 省資源・省エネルギーの視点から、サプライチェーンを構成する製造業・流通業・物流業等が一体となって物流の環境負荷を低減するため、物流諸活動のガイドラインをまとめ、その結果を関係者に公開する。
- 2) 課題解決のための方向性をまとめ、関係者に提言する。

### 2. 活動内容

- 1) 企業(間)の各種物流施策の事例集の作成  
事例収集の切り口、テーマは委員会メンバーの業種、製品群等によって検討する。  
例) (1)食品 (2)機械器具・精密機器 (3) 素材(化学・鉄鋼等) (4)その他
- 2) ガイドラインの作成  
(1)複数企業間、業際間の各種物流施策に対する課題の整理  
(2)省資源ロジスティクスを推進するための方針のまとめ  
(3)物流施策別の評価手法の作成（コスト・時間に環境のパラメータを加える）  
輸送モード(鉄道・船・トラック等)、配送パターン(共同配送等)、車種別等の組合わせ  
事前にサプライチェーン上の何処にボトルネック(負荷)があるのか、検証が必要
- 3) 提言の作成

### 【図 委員会の重点活動領域】



### 3. アウトプット(成果)

- 1) 企業(間)の各種物流施策の事例集
- 2) ガイドライン
- 3) 提言  
(1)対行政 (2)対産業界 (3)対消費者 その他  
各委員会の提言内容は、企画運営委員会にて集約してまとめる。

### 4. 目標

- 1) 企業(間)の各種物流施策の事例集の作成・・・2004年10月
- 2) ガイドラインの作成・・・2005年10月
- 3) 提言の作成・・・2005年12月

## 分科会（グループ）構成（案）

当委員会の活動を具体的に進めるにあたり、分科会を構成することが第2回委員会にて確認された。

また、アウトプットである事例集、ガイドラインを作成するにあたり、業種、製品群等によって興味が異なるため、委員会メンバーの業種、製品群等に基づき正副委員長によって、以下のような分科会構成案（A案）が検討された。

また、事前に委員会からの意見として出されたB、C案を加え、分科会の構成を検討したい。物流企業の方につきましては、関心のあるグループにご参加いただく。

### 【A案】

1. 食品・流通グループ  
（対象業種：食品・卸売・農林水産・流通）
2. 機械器具・精密機器グループ  
（対象業種：機械器具・精密機器・輸送用機械器具・電機機械器具）
3. 素材グループ(化学・鉄鋼)
4. その他

### 【B案】

1. 食品・流通グループ  
（対象業種：食品・卸売・農林水産・流通）
2. 機械器具・精密機器・素材グループ  
（対象業種：機械器具・精密機器・輸送用機械器具・電機機械器具）  
上記に素材グループ(化学・鉄鋼)も加える  
機械器具・機器、素材の統合グループを希望  
トラック仕様、機器(パレット)等の仕様の標準作りと実共同輸送の体制作りを検討する。

### 【C案】

省資源ロジスティクスの場合正副委員長の方針にもありますように、モーダルシフト、共同輸送、ユニットロード、省資源梱包等が中心議題になると思います。この各要素に関する検討が十分進む体制が、妥当なのではないかと思えます。

以上

## 事例集の編集方針と構成（案）

### 1．事例集の編集方針

- 1) 企業および複数企業間の省資源・省エネルギーの物流活動の事例を収集および整理のうえ公開し、関係者の活動を支援する。
- 2) 各事例の中から課題解決の方向性を示すポイントを整理し、ガイドラインや提言を作成する際に活用する。
- 3) その他

### 2．事例集作成のステップ

- 1) 事例集の編集方針の検討と確認
- 3) 分科会（WG）による整理
- 2) 事例の収集（アンケート等）
- 4) 各事例の編集
- 5) 事例集の作成

### 3．事例収集の構成（例）

#### 1) 業種

- (1) 食品
- (2) 機械器具・精密機器
- (3) 素材(化学・鉄鋼等)
- (4) その他

#### 2) テーマ

- (1) 共同物流  
    幹線輸送  
    配送  
    拠点  
    その他
- (2) 省資源活動
- (3) モーダルシフト
- (4) その他

#### 3) 範囲（領域）

- (1) 調達物流
- (2) 生産物流
- (3) 販売物流
- (4) その他

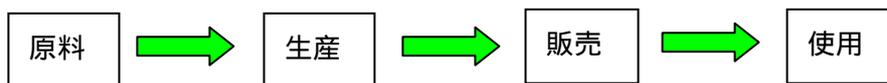
## 省資源ロジスティクスに関するアンケート調査票（案）

ロジスティクス環境会議  
省資源ロジスティクス推進委員会

問 1 . 貴社の概要についてご記入下さい。

貴社名	
ご記入者指名	
所属部課名	
ご連絡先	

問 2 . 原材料の調達段階から製品又は商品の使用段階までの流通過程において、貴社が主に関係している番号に 印をつけて下さい。



問 3 . 平成 14 年度における年間売上高はいくらですか。

\_\_\_\_\_ 億円

問 4 . 平成 14 年度における貴社の国内の物流における入荷量・出荷量(トン)について、年間の数量(トン)についてご記入下さい。また、輸送機関別の割合はどの程度ですか。おおよその割合をご記入下さい。

年間入荷量：約 \_\_\_\_\_ トン

年間出荷量：約 \_\_\_\_\_ トン

区 分	鉄道	トラック	内 航 海 運・長距 離フェリー	国内航空	その他	合計
入荷	%	%	%	%	%	%
出荷	%	%	%	%	%	%

問 5 . 原材料の調達段階から製品又は商品の使用段階までの流通過程における省資源対策、モーダルシフト対策、共同物流対策等の省資源ロジスティクス対策について、貴社が取組んでいる内容についてご記入下さい。なお、関連する資料の貼り付け、同封でもかまいません。

省資源対策事例【原材料の調達段階から製品又は商品の使用段階までの流通過程】

区 分	事 例 内 容
<p>積極的に取り組んでいる省資源対策について該当する番号ひとつに印を付けて下さい。</p>	<p>1. パレット、コンテナ等の輸送用具の修理、再生による長期使用 2. 輸配送への通い容器の使用                      3. 輸送中の緩衝材、養生材の削減 4. 輸送中の緩衝材、養生材の再使用                      5. 輸送中の緩衝材、養生材のグリーン商品の使用 6. 出荷伝票類の省資源化                      7. 養生用梱包資材の再資源化、適正処理 8. その他</p>
<p>導入時期</p>	<p>年 月</p>
<p>具体的な対策の実施内容についてお書き下さい。</p>	<p>具体的な実施内容</p>



モーダルシフト事例【原材料の調達段階から製品又は商品の使用段階までの流通過程】

区 分	事 例 内 容			
シフト貨物の品名				
導入時期	年	月	月間シフト輸送量	トン/月
発着地の県名または都市名	発地:			
	着地:			
荷姿について該当する番号ひとつに 印を付けて下さい。	1.バラ・裸貨物 2.段ボール箱 3.木枠・木箱・金属箱等 4.紙袋・布袋 5.パレット 6.コンテナ 7.金属缶等 8.その他			
出荷頻度について該当する番号ひとつに 印を付けて下さい。	1.ほぼ毎日 2.2~3日に1回程度 3.1週間に1回程度 4.2~3週間に1回程度 5.1ヶ月に1回程度 6.それ以下			
輸送モード	シフト前		シフト後	
シフト後のフェリー・内航海運または鉄道の利用区間	港から または 駅から		港まで または 駅まで	
シフトを行った主な理由について該当する番号に3つまで 印を付けて下さい。	1.輸送コストの低減 2.輸送時間の短縮 3.到着時間の正確性の確保 4.相手先荷主の意向 5.環境問題への対応 6.運転手の負担軽減 7.人手不足の解消 8.荷傷みの防止 9.物流事業者からの提案 10.物流システム全体の見直し 11.輸送ロットの見直し 12.その他			
シフトを行った狙い、理由具体的に書き下さい。				

区 分	事 例 内 容
シフトによる増減率 シフト後 / シフト前 × 100%	輸送コストの増減率                    %
	所要時間の増減率                    %
	CO2 排出量の増減率                %
シフトによる効果について 具体的にお書き下さい。	
今後の計画、展望について お書き下さい。	

共同物流事例【原材料の調達段階から製品又は商品の使用段階までの流通過程】

区 分	事 例 内 容
<p>取組んでいる共同物流対策について該当する番号3つに 印を付けて下さい。</p>	<p>1. 同業他社との物流センター共同化 2. 同業他社との配送の共同化                      3. 同業他社との幹線輸送の共同化 3. 異業種との物流センター共同化                      5. 異業種との配送の共同化 6. 異業種との幹線輸送の共同化                      7. 卸商業団地における共同配送 8. 業務商業集積地区における共同配送 9. その他</p>
<p>最も積極的に取組んでいる共同物流対策について具体的な実施内容をお書き下さい。                      項目例:対象貨物、対象エリア、実施前と実施後の共同物流フロー など</p>	

区 分	事 例 内 容		
導入時期	年 月	月間共同物流取扱量	トン/月
共同物流を行った主な理由について該当する番号に3つまで 印を付けて下さい。	1. 物流コストの削減 2. 輸配送の効率化 3. 在庫量の圧縮 4. 荷受負担の軽減 5. トラック台数の削減 6. 商品管理能力の向上 7. 流通加工サービスの充実 8. 環境問題(CO2、NOx・PM、騒音問題)への対応 9. その他		
対策を行った狙い、理由について具体的にお書き下さい。			
対策効果の増減率 実施後 / 実施前 × 100%	輸送コストの増減率		%
	所要時間の増減率		%
	CO2 排出量の増減率		%
対策効果について具体的にお書き下さい。			
今後の計画、展望についてお書き下さい。			

問 6 . 原材料の調達段階から製品又は商品の使用段階までの流通過程における環境負荷の最小化を進めていく上で、省資源、モーダルシフト、物流共同化に関する貴社のご意見、ご要望等がありましたらご自由にお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

## ロジスティクス環境会議

### 第 2 回省資源ロジスティクス推進委員会 議事録

・ 日 時：2004年2月17日(火) 14:00～17:00

・ 場 所：東京・港区 芝パークホテル 別館2F アイビー

・ 出席者：37名

・ 議 案：

- 1) 省資源ロジスティクス推進委員会の活動内容について
- 2) その他

・ 開 会

定刻、山本委員長により、開会が宣された。

・ 第 1 回委員会議事録の確認【資料 1】

事務局より、資料 1 に基づき、第 1 回委員会の議事経過の報告がなされ、第 1 回委員会の議事録の確認がされた。

・ アンケート集計結果の報告

1) 問題抽出アンケート 2 次集計結果の概要【資料 2 - 1】

事務局より、資料 2 - 1 に基づき、1 件の回答が複数の委員会の検討課題(テーマ)として取扱われることが望ましい場合も考えられるため、これに対応した 2 次集計を行った結果の概要が報告された。

2) 活動内容等に関するアンケート集計結果の概要【資料 2 - 2】

事務局より、資料 2 - 2 に基づき、第 1 回委員会開催後に行われた「委員会の活動内容に関するアンケート」の結果の概要が報告された。

主な回答結果として、活動テーマへの要望については、共同物流 15 件、モーダルシフト 13 件、省資源 11 件、アウトプットへの要望については、ガイドライン 14 件、事例集 11 件、提言 10 件等が報告された。

・ 議事の経過

1. 議 事

山本委員長の司会進行のもと、以下のような議事が行われた。

1) 省資源ロジスティクス推進委員会の活動内容について【資料 3】

山本委員長より、資料 3 に基づき、第 1 回委員会に引続き、正副委員長ミーティングの検討内容と委員会の議題と(合意形成)したい項目について確認がなされ、以下のような意見交換がなされた。

【意見交換の主な内容】

- 【委員】具体的な活動を行っていく場合、分科会形式でテーマを掘り下げても良いのではないか。
- 【委員】分科会形式で委員会を運営していくことに賛成である。各メンバーは興味のあるテーマの分科会に参加するべきであり、複数登録も可能にした方が良い。
- 【委員】テーマによっては、当委員会だけでは方向性等が見出せない場合もある。JILSで組織化している業種別分科会に投げかけることも必要ではないか。
- 【委員】当委員会の大きな課題である企業間連携を推進するためには、A B C (活動基準別原価計算)が重要となる。また、運営方法としては、取組むべき問題と取組むことが出来る問題というように整理したうえで具体的な活動に入った方が良いのではないか。
- 【委員】環境やコスト削減をテーマに活動を進めようとする場合、小売業との取引関係が制約になる場合があるため、当委員会を通じて解決の糸口となるようなガイドライン等を作成したい。
- 【委員】小売業としても、サプライチェーン全体を通して環境負荷やコストの低減に結びつくような共同配送のコーディネート等の活動を始めている。以前は各店舗のバイヤー間や物流部門等の連携が取れていなかったことに問題があったが、それを克服するために各部門の連携を強化している。
- 【委員】パレットの流出が大きな問題となっている。環境負荷を低減していくためには、パレチゼーションの果たす役割も大きい。I C タグ等で情報化し、仕組みとして成り立つようにしていきたい。
- 【委員】共同配送に興味がある。分科会で検討していきたい。
- 【委員】モーダルシフト等の調査は既に行政で行われているものがある。既に公開されている報告書等は活用していくべきである。
- 【委員】議論する範囲として消費者まで含むのかなど、枠組みの検討が必要ではないか。また、テーマの難易度を確認したうえで、活動の優先順位を検討しても良いのではないか。
- 【委員】活動テーマの候補がいくつかあるが、製造業等の荷主企業と物流企業が共に方向性を見出すような取組みをするべきではないか。
- 【委員】複数企業間で環境負荷低減等の活動を行う場合、企業間におけるデータ交換等も含め、標準化が大きな課題となる。当委員会で議論していきたい。

以上のような意見交換が行われた後、正副委員長により以下のような確認がなれた。

- 1) 資料3による、当委員会の基本的な活動の方針や方向性、成果(アウトプット)は第2回委員会を持って了承いただいたものとする。詳細の表現等については、正副委員長による協議のうえ最終版とし、委員長ミーティングおよび第3回企画運営委員会に図り、第2回本会議にて発表する。
- 2) 今後の具体的な活動については、分科会を構成する。また、活動のテーマや切口については、業種によって興味が異なるため、次回委員会までに正副委員長と事務局にて協議のうえ、分科会等の原案を作成し、次回の第3回委員会にて提案する。

2) その他

今後のスケジュールについて

第3回委員会は、次のとおり開催することが確認された。

日時：2004年3月24日(水) 10:00～12:00

会場：芝パークホテル 本館3F 牡丹

2. 閉 会

以上をもって全ての議事を終了し、山本委員長は閉会を宣した。

以 上

